

第5回次世代日本研究者 協働研究ワークショップ プログラム例

※詳細は変更になる場合があります。

“ネットワークを構築し、協働研究を実践する力を養うため”の各種プログラムを用意しています。
講義を通じた知識のインプットに留まらず、バックグラウンドの異なる参加者同士が議論するグループワークの時間を設けることで、より深い考察に繋げることを目指します。
また、プログラムで得るネットワークを協働研究の実践の足場とできるよう、最終日には、異なる国・地域(国際性)、異なる分野(学際性)の者同士でグループを作り、実際に要旨(アブストラクト)作成や簡易のパネル研究発表を行い、講師からの講評を受ける機会を提供します。

テーマ	内容
学際研究の意義	<u>講義内容</u> ・概説:学際研究とは何か。なぜ、分野を超えた研究協力が必要なのか。
「研究者」を考える論文発表と出版	<u>講義内容</u> ・研究者と社会の関わりを出版や論文発表から考える。 ・日本や英語圏で出版、論文発表を行う際の留意点。 <u>ワーク</u> ・講義での問いかけを受け、自身の研究についてその社会的意義を説明する。
奨学金／研究費獲得に向けた申請書の書き方・研究デザイン	<u>講義内容</u> ・奨学金等に申請する際の申請書の書き方講座。 ・自分の研究を如何に意義あるものとして説明するのか。説得力のある研究デザインとはどんなものか。 <u>ワーク</u> ・実際に申請書を書き、講師からコメントを受ける。
研究内容オリジナリティの見つけ方	<u>講義内容</u> ・自分の研究に合った研究方法の選び方。講師はどのような経緯で現在の研究内容・研究方法に至ったか ・先行研究をふまえて、どの部分であれば自身のオリジナリティを出せるか、また他の分野とどのように関わっているか。 ・研究のオリジナリティと協働研究の実践。 <u>ワーク</u> ・自分の研究のオリジナリティは何か ・自分の研究でカバーできない部分は何か。そこをどう補っていくか。
「研究者」としてのキャリアと国際協働研究	<u>講義</u> ・各講師のパーソナルヒストリーを紹介、なぜ日本を研究するに至ったか ・どういった学会で活動してきたか ・現在に至るまでの国際的な研究の繋がり ・いままで直面した壁とその打開方法 ・若手研究者としての心得(所属機関における役割等々) <u>座談会</u> ・前半の各講師の紹介を受け、若手、シニアの立場から「研究者」としての国際協働研究について、全講師による座談会を実施
大学訪問／交流	・日本国内の大学や研究所の訪問 ・日本国内の大学に所属する教員や学生との交流(研究に関するディスカッション 等)
国立国会図書館見学	・館内(本館、新館)見学、新刊書庫見学 ・利用方法の説明
グループ発表	・グループごとに発表(国際学会参加を想定し、模擬パネル発表) ・講師からの講評(実際にAASに応募する際の具体的アドバイス) ・本ワークショップ全体統括

【使用言語】
プログラムを通じて、日本語・英語どちらも用いる可能性がありますが、いずれの場合も通訳はありません。
参加者は、両言語でインプット・アウトプットができる必要があります。